

序

日本経営学会第 87 回大会委員長 深 山 明

日本経営学会第 87 回大会が、2013 年 9 月 5 日から 7 日までの 3 日間にわたって、関西学院大学の上ヶ原キャンパスで盛大に開催された。当初は心配されていた台風の襲来もなく、500 名を超える参加者を迎え、無事に終了することができたことは大会委員一同にとって無上の喜びとするところである。この大会を開催するにあたっては、報告者、理事会やプログラム委員会の先生方、さらには、司会者および討論者の任に当たられた多くの先生方にご尽力いただいた。お世話になったすべての方々に心からお礼を申し上げたい。

日本経営学会の大会が関西学院大学で開催されたのは 3 回目である。いまから 30 年前の 1984 年に第 57 回大会が開催され、吉田和夫先生が大会委員長を務められた。また、その約 30 年前の 1950 年に池内信行先生が中心となって第 23 回大会が開催された。統一論題は「株式会社経営の問題」であった。この大会では、第 2 次世界大戦後の経済再建という大きな流れの中で株式会社の意義や役割などが熱心に議論されたということである。さらに、第 57 回大会では、「現代企業の所有と支配」が統一論題とされた。当時は、高度成長期が終わり、日本企業が石油ショックを凌いだ時期であった。この頃から日本的経営に対する評価が高まった。かかる状況の中で株式会社の根本問題が俎上に載せられたのである。このように、過去に開催された 2 度の大会では、経営学の対象たる企業の在り方が問題とされたのであった。そして、今回の大会においては、「経営学の学問性を問う」という統一論題が設定され、経営学そのものの在り方が根底から問われたのである。企業の在り方および経営学の在り方に関する問題は、いずれも経営学の研究に携わっているわれわれにとっては、避けては通れない重要な問題である。とくに今大会の統一論題に対する関心は高く、多くの会員が最終日まで熱心に討議に参加されたのである。

第 87 回大会の記録を『経営学論集 第 84 集』という形で公にできることは、われわれにとっては大きな喜びであり、この機会にご協力いただいたすべての方々にお礼を申し上げる次第である。